

# 2021年3月期 第1四半期業績資料

2020年 8月7日  
ジオマテック株式会社

# 第1四半期 連結業績

単位：百万円

	2020.6	2019.6	前年同期比	
	(1Q-FY20)	(1Q-FY19)	金額	増減率
売上高	1,514	1,420	94	6.6%
営業利益	△ 62	△ 265	203	-
(営業利益率)	△ 4.1%	△ 18.7%	-	-
経常利益	△ 49	△ 273	224	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 164	△ 275	111	-
1株あたり 四半期純利益(円)	△ 20.76	△ 34.85	14.09	-
加工高	1,254	1,245	9	0.7%

2020.3	前四半期比	
(4Q-FY19)	金額	増減率
1,397	117	8.4%
△ 255	193	-
△ 18.3%	-	-
△ 262	213	-
△ 627	463	-
△ 79.33	58.57	-
1,167	87	7.5%

※加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上（付加価値収入）のことです。  
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

# 財務概要

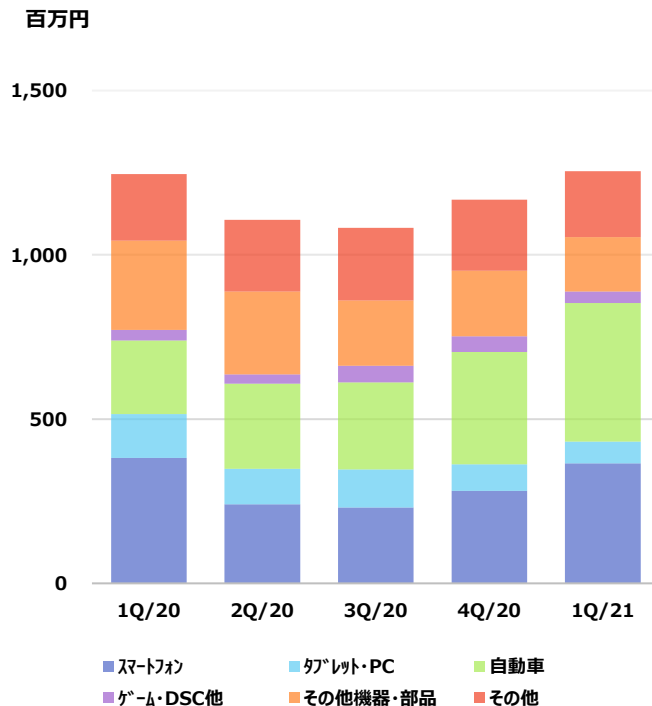
単位：百万円	2020.6	2020.3	増減
<b>流動資産</b>	<b>14,141</b>	<b>12,239</b>	<b>1,902</b>
現金・預金	7,737	7,599	138
受取手形・売掛金	4,759	2,831	1,928
たな卸資産	1,438	1,284	154
その他	204	523	△ 319
<b>固定資産</b>	<b>3,403</b>	<b>3,150</b>	<b>253</b>
有形固定資産	2,014	1,756	258
無形固定資産	37	38	△ 1
投資その他	1,351	1,355	△ 4
<b>合計</b>	<b>17,545</b>	<b>15,390</b>	<b>2,155</b>

単位：百万円	2020.6	2020.3	増減
<b>負債</b>	<b>6,718</b>	<b>4,386</b>	<b>2,332</b>
支払手形・買掛金	3,899	1,949	1,950
借入金等	1,771	1,313	458
その他	1,047	1,123	△ 76
<b>純資産</b>	<b>10,826</b>	<b>11,004</b>	<b>△ 178</b>
株主資本	10,650	10,815	△ 165
その他の包括利益 累計額	175	189	△ 14
<b>合計</b>	<b>17,545</b>	<b>15,390</b>	<b>2,155</b>

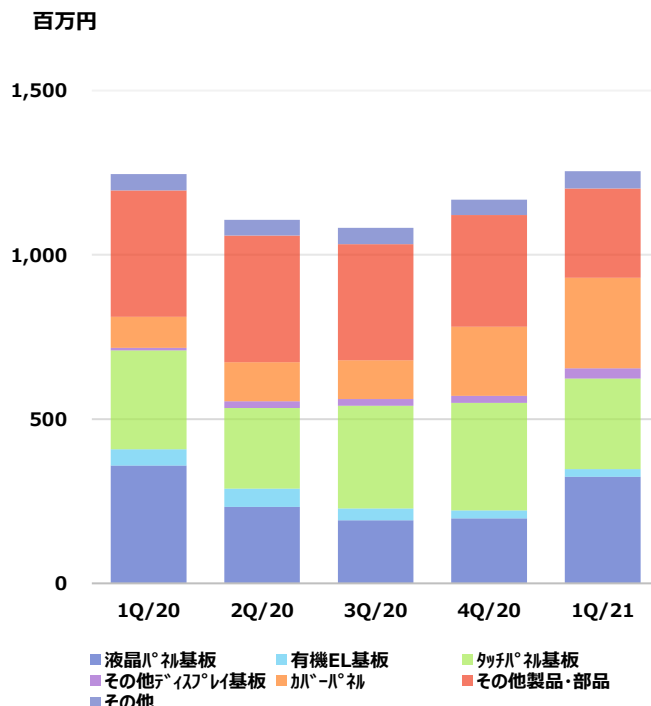
<b>自己資本比率</b>	<b>61.7%</b>	<b>71.5%</b>	<b>△9.8pt</b>
<b>1株あたり純資産(円)</b>	<b>1,368.71</b>	<b>1,391.19</b>	<b>△ 22.48</b>

# 四半期加工実績

## 最終製品別加工高推移



## 品目別加工高推移



※加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上（付加価値収入）のことです。  
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

## 2021年3月期第1四半期（4－6月）決算ポイント

当第1四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、中国子会社における当第1四半期（2020年1月～3月）が、感染症拡大防止のための生産活動の一時停止や減産調整が行われた時期にあたり、極めて厳しい状況で推移いたしました。一方、国内においては、前期より後ろ倒しとなっていた受注が当第1四半期に実現したことにより、概ね前年同期を上回る状況で推移いたしました。

この結果、売上高は、1,514百万円となりました。損益につきましては、売上高が増加したことや前期に計上した減損損失により減価償却費が減少したことなどから、営業損失は62百万円、経常損失は49百万円と大幅に改善いたしました。親会社株主に帰属する四半期純損失は、収益性低下が継続していることから固定資産の減損損失110百万円を計上したことにより、164百万円となりました。

## 2021年3月期の連結業績予測について

今後の経済見通しにつきましては、いまだ新型コロナウイルス感染拡大が続いており、先行きは引き続き非常に不透明感が強い状況にあります。

当社グループの主力市場であるF P D市場や電子部品市場におきましても、生産活動の一時停止や減産が行われ、その影響は当社においては当第1四半期よりも、むしろ7月以降顕著に現れ初めており、今後の見通しは極めて不透明な状況にあります。また、米中対立も激しさを増しており、この影響も懸念されます。

このような状況の下、当社グループの業績を現時点において合理的に見積もることが困難であるため、2021年3月期の業績予想につきましては未定とさせていただきます。なお、今後、業績予想の算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

# 重点施策について

## ① 特定事業領域への過度な依存からの脱皮

当社グループの主力製品が関連する中小型F P D市場において、事業の主軸でありましたスマートフォン市場における液晶パネル関連需要の減速と、有機E L ( O L E D ) パネルへの代替といった環境変化に対応するために、特定市場への依存偏重から脱皮し成長分野への事業領域拡張を加速してまいります。

- 対象事業領域をマクロトレンドから成長性が見込めるエレクトロニクス・モビリティ・インダストリーの3分野に拡張し、分野別対応策を段階的に実行することにより、事業及び商材ポートフォリオの転換を図っております。
- また、技術開発部門を再編強化することで、各事業領域での成長を支えるコア技術（g.moth®・薄膜センサー・超撥水/撥油/滑落膜など）の創出に注力すると同時に、製造技術も真空成膜をベースとしつつ応用や製法の多角化に取り組んでおります。

## ② 受託加工專業からの脱皮

対象市場でのサプライチェーン垂直統合や地理的再編、また競合環境の変化に対応するため、受託加工專業から脱皮し表面加工のソリューション業への業態変化を加速してまいります。

- これまでの、部分（成膜）工程受託で培った技術や製造ノウハウ、装置の調整やカスタム化、また工程や設備設計といった成膜「匠」のコンサルティングまでを事業商材と位置付け、アライアンスも積極的に活用することで新たなビジネスモデルの創出に取り組んでおります。
- マーケティング機能を強化することで、従来の指定受動型での価値提供販売モデルを、ニーズ発掘に基くシーズ開発からデジタルトランスフォーメーション（D X）活用の販促やオンライン販売といった能動提案型の価値共創販売モデルへと転換を進めております。

## ③ 経営体質のさらなる強化

事業領域の拡張やビジネスモデル転換といった対外的な対策と同時に、内部的な取り組みによる収益力強化も加速してまいります。

- 各商材カテゴリーごとに細分化した限界利益率向上の取り組みに着手し、開製販横断的にP D C Aを展開することで商材単位での収益力底上げを進めております。
- モノづくり戦略の抜本的な見直しとして、商材や製法に則した最適製造拠点での設備総合効率の改善、自動化及びIT化による成膜前後工程の作業効率改善、品質ロスコストの更なる低減によって、生産性の向上に取り組んでおります。

## ・情報提供の目的

当サイトの目的は、当社への理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。掲載されている情報は、インターネット上で簡便にご参照いただくために作成されたものです。当社は細心の注意を払っておりますが、掲載されている情報には不測の誤りがある可能性があります。当サイトのご利用により、被害・損害が発生したとしても、当社は一切責任を負うものでないことをあらかじめご了承ください。

## ・将来予測に関する考え方

当サイトに掲載されている情報には、当社の計画、予測など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらは、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断および仮定に基づくものであり、既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、当社の業績、事業活動、財務状況は、見通しと大きく異なる場合があります。

## ・投資判断に対する考え方

投資に関する最終的なご決定は、当サイトの情報に全面的に依存することはお控え頂き、ご自身の判断と責任において行われますようお願いいたします。

## ・情報内容変更等の可能性

当サイトまたは当サイト上のコンテンツは、予告なく変更、修正、削除、中断することがあります。当社は、サイトに掲載された情報を更新する義務を負うものではなく、その約束をするものではありません。当サイトのいかなる情報についても、常に最新情報に反映されるものでないことをご了承ください。